

地歴公民科学習指導案

指導日時 平成30年2月7日(水) 第1校時  
 指導学級 2学年進学1-1選択者(男子5名,女子1名 計6名)  
 場所 鹿児島県立古仁屋高等学校 特1教室  
 指導者 教諭 米倉秀和  
 科目名 世界史 B  
 使用教科書 『高校世界史』(山川出版社)

1 単元名 西ヨーロッパ世界の成立(第Ⅱ部第5章第1節)(全5時間)

2 単元について

○ 「基軸となる問い」の設定と単元の目標

＜なぜ、ローマ＝カトリック教会は西ヨーロッパ中世世界を成立させられたのか。＞

- (1) ローマ＝カトリック教会の発展を通して、西ヨーロッパ中世世界成立の歴史を宗教的な動きを視点に大観させる。
- (2) 当時の複雑な社会情勢を各資料から読み取らせることによって、中世ヨーロッパの歴史に関わる基本的な知識を定着させる。

○ 単元の評価基準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
ローマ＝カトリック教会がなぜ世界宗教になったのかについて、中世ヨーロッパの歴史を視点として意欲的に追究しようとしている。	ローマ教会の発展、西ヨーロッパ世界の成立の内容に着目し、諸資料を基にローマ教会について多面的・多角的に考察している。	ローマ教会の発展と西ヨーロッパ世界成立の関係について、諸資料から有用な情報を読み取っている。	ゲルマン人の大移動による混乱から西ヨーロッパ世界成立にいたる歴史に関する基本的な知識を身に付けている。

○ 単元の指導計画(全5時間)

順	学習内容	評価の観点				評価
		関	思	技	知	
1	ヨーロッパの風土と人々/ゲルマン人の大移動と西ローマ帝国の滅亡	●			●	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">ゲルマン人は、なぜ大移動に至ったのか。</div> ○ 資料(西ローマ帝国の滅亡,カタラウヌムの戦い,ゲルマン諸国家の分布図)を通して当時の社会の中心軸がローマ教会であることを理解させ、当時の混乱状況に興味・関心を持たせる。
2	フランク王国の発展/ローマ＝カト		●		●	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">フランク王国はどのように西ヨーロッパを統一したのか。</div>

	リック教会の成長				○ フランク王国が西ヨーロッパ世界を統一する経緯をローマ教会、ギリシア正教会、イスラーム教との関わりから理解させる。
3	カール大帝と西ローマ帝国／フランク王国の分裂			●	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">なぜ、フランク王国分裂後も西ヨーロッパ世界は維持されたのか。</div> ○ 西ヨーロッパ中世世界成立の背景にローマカトリック教会の存在がある（ビザンツ皇帝からの独立、オットー1世への戴冠）ことを理解する。
4	外部勢力の侵入とヨーロッパ世界／封建社会の成立／ローマ教会の権威	●		●	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">ローマ教会が封建社会全体に普遍的権威を持てたのはなぜか。</div> ○ 資料（「中世に生きる人々」等）の読み取りながら、当時の荘園における教会の深い影響力について理解する。
5	単元のまとめ	●	●	●	本時の指導案参照

### 3 生徒観

進学コース在籍生徒のうち、世界史を選択した生徒である。人数は少ないが、世界史学習への関心は高く、積極的に授業へ参加しているように思われる。生徒の性格によって発問に対する積極性には差が見られるが、歴史の本質を突いた良い質問も行う。ただし、予習や復習をしっかりと行う習慣が定着していないため、授業での学習内容が定着せず、単元全体を通じた知識の定着につなげていない。したがって、単元全体において身に付けさせたい力を明確にし、効果的な指導を行う必要がある。

### 4 指導観

【学習課題1】について、単元の学習内容を踏まえて解決できる段階に到達できるかを、判断基準Aとする。その上で、新たな視点の問いである【学習課題2】に対し、自分の意見を述べ、他の生徒の意見を取り入れ、最初の自分の意見を再構築する段階まで到達できるかを、判断基準Bとする。本校生徒の実状を考慮すると、この段階まで到達するのは難しい。そこで、授業前の事前指導も必要となる。

### 5 本時の指導目標

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
修道会の資料を読むことで、ローマ＝カトリック教会への関心を深める。	【学習課題2】の解決を通じて、学習内容を生かした新たな視点の問いについて考察する。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">判断基準B</span>	ヒストグラムの活用を通じて、ローマ＝カトリック教会と西ヨーロッパとの関わりについて有用な情報を読み取る。	【学習課題1】の解決を通じて、本単元の内容を解体再構築し、より深く単元の内容を理解する。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">判断基準A</span>

4 本時の実際

	学習活動	指導上の留意点
導入 (5分)	<p><b>【学習課題1】</b>なぜ、ローマ=カトリック教会は西ヨーロッパ中世世界を成立させられたのか。</p> <p>① 復習内容の確認をする。</p> <p>② 授業者による補足・説明を聞きながら解答合わせをする。また、欄外にメモをとり、内容の補完をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 机間巡視で生徒の様子を把握する。アドバイスが必要であれば適宜行う。</li> <li>・ 学習内容については既習事項であることを前提としているため、簡潔に説明する。</li> </ul>
展開	<p>① 「西ヨーロッパ解体」カード（以下、赤カード）の作成を行う。（7分）</p> <p style="padding-left: 20px;">※「西ヨーロッパ解体」カード</p> <p style="padding-left: 40px;">…西ヨーロッパが統一できない理由となり得る出来事が書き込まれたカード</p> <p>② 2つのグループに分かれ、「ヨーロッパ統一ヒストグラム」に赤カードを配置する。（5分）</p> <p>③ ヒストグラムの中でバランスが良くなるように、よく考察しながら赤カードに対応する「西ヨーロッパ統一」カード（以下、緑カード）を作成、配置していく。（7分）</p> <p style="padding-left: 20px;">※「西ヨーロッパ統一」カード</p> <p style="padding-left: 40px;">…西ヨーロッパの解体を避けるためにローマ=カトリック教会が実行した出来事が書き込まれたカード</p> <p>④ グループごとにヒストグラムの発表を行う。（5分）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 机間巡視で生徒の様子を把握する。アドバイスが必要であれば適宜行う。</li> <li>・ 生徒の発表内容に対して、なぜそのような結論に至ったかなど質問する。</li> </ul>
	<p><b>【学習課題1に対する課題解決】</b>西ヨーロッパは、ローマ帝国東西分裂以降の不統一に歯止めがかからず、封建社会となるに至ったが、ローマ=カトリック教会がゲルマンへの布教、フランク王国への接近、修道院運動、ビザンツ皇帝からの独立、叙任権闘争などを経て、イスラーム、ギリシア正教会、世俗権力との違いを明確にすることにより、西ヨーロッパ全体の普遍的権威となることに成功したため。</p>	

終末  
(10分)

【学習課題2】単元の学習内容を踏まえ、なぜ、ローマ＝カトリック教会は現在もなお世界宗教であるのか、本單元におけるローマ＝カトリック教会から理由を考える。

① 現在、ローマ＝カトリック教会が世界宗教であることを示す資料を読み、その理由を明らかにする。

・補足資料で理解を深めさせる。

② 授業の学習内容を踏まえた上で、世界宗教に必要な資質について、意見を出し合い、周囲の意見を照合させ、理由を総合的に考察する。

【学習課題2に対する課題解決案】ローマカトリック教会は、ローマ帝国の本山の一つであるが、ゲルマン人への布教に踏み切ったり、修道院運動を通して封建社会の隅から隅まで布教を行ったり、叙任権を巡っては世俗権力相手に一步も引かない姿勢をみせるなどして、普遍的権威を獲得し、世界宗教へのステップアップを果たした。このような、現実に対して柔軟に対応しつつも、譲れない部分にはこだわるといふ姿勢には、学べる部分が大い。

③ 授業の感想をワークシートに記入する。